

“一”

の組み合わせ

R5.1.25_Wednesday

【心を育む生徒指導通信 No9：通算 52 号】

作成者・教諭 花園修兵

新年あけましておめでとうございます。

2023 年が始まりました。皆さんはそれぞれにどのような気持ちで新年を迎えられましたか？

冬休みが終わり、新たな目標を掲げて日々の生活を過ごされていることと思います。

さて、2023 年 スタートの生徒指導通信のテーマは「一の組み合わせ」です。

何事も基礎基本が大事。とはよく言われることですね。

新たな気持ちで、新たな目標に立ち向かうにあたって、何を大切にしながら人生を生きていけばよいか。

今回は言語墨彩画家の ひろはまかずとし さんのお話を例に一緒に考えていきたいと思います。

まず、人間は誰でもコンプレックスというものがあります。

私もありました。皆さんもきっとあると思います。

花園少年の話が少しすると、私は字を書くのがとても苦手で、書くということがとても嫌いでした。



理由は簡単で字がとても下手だったからです。

小学校へ入学すると同時に書くことの作業が増えてきます。

漢字も出てきて書くということに抵抗を感じ始めた頃でした。

先生や友達から「お前は字が汚い」「下手くそやなあ」こんなことを言われるのは毎日のことです。

確かに自分で描いた字を見返してみても、大きさ、形、バランス、どれを見ても・・・汚いと感じる。

今でこそ笑えますが、当時の私からしてみると深刻な問題でした（笑）

周りの友達に上手く書いています。

そういえば皆、日曜の9時になると習字を習いに行っていました。

私は友達の習字が終わるのを・・・

いつも外でグローブやバットを持って待っていた記憶があります。

じゃあ、お前も習字を習えよって感じですよ（笑）

そんな私にスイッチが入った瞬間がありました。

それは中学生の頃でした。本当に大嫌いな（当時）先生だったんですが、

とにかく板書される字が黒板を消したくないほどに

綺麗に板書される先生だったんです。線・角度・大きさ・全てのバランスが

見事にとれて見やすい。その時に思ったんです。

自分もこんな綺麗な字が書きたいと・・・そこから私の研究が始まります（笑）

字を書くのは下手なんですけど、絵を描くのは実は好きで、

まあまあいけるほうだったんです（笑）と、

勝手に思ってます（笑）そこで、考えたのはマネることでした。

とにかくコピーしたろう！！・・・と思って何回も練習したんです。

その結果どうなったか・・・



これや！！



その私が一番嫌いだった先生が、お前の字はとても綺麗で気持ちがこもっていると・・・

内心、「あんたの字だよ」って思った瞬間もありましたが（笑）

なんと！ 私の字を初めてほめてくれる人が現れたんです。

今は野球部の日誌を毎日チェックしています。

すると、不思議なもので、確かにあの時の先生が言ったように、

気持ちの入っている字と、そうでない字、

作業で書かされている字、がひと目でわかるようになりました。

わかってるんだぞ野球部諸君！

それでは、ここからは ひろはまかずとし さんのお話です。

致知出版社 人間力 メルマガ 3分で読める感動実話 より

言葉墨彩画家 ひろはまかずとし

実は私は、子供の頃から字が下手でした。

普段書く字はもちろん、書道も絵も、通知表の評価ではいつも1か2でした。

そういう人間がいま、言葉墨彩画家として、たくさんの方々に恵まれ、一定の評価を得ています。

書家や画家の方から一度も非難を浴びたこともなく、むしろそういう人たちの中にも私のファンの方がいます。この事実は、とても大きな教訓を含んでいると思うのです。

中学時代のある日のことでした。国語の先生がお休みで、代わりに教頭先生が授業を受け持ってくださいました。教頭先生は「今日は習字をやろう」とおっしゃり、字の嫌いな私が憂鬱な思いを抱いていると、教頭先生は半紙を1人20枚ずつ配り・・・

「横棒の1だけを書きなさい。一に決まりはないから、何も考えずにあなたの一だけをひたすら書きなさい」

とおっしゃったのです。

教頭先生は黙々と描き続けている生徒の周りを回り、各々の字を褒めては頭を撫でてくださいました。私はその時間中に30回くらい頭を撫でられました。文字で褒められたことのない人間が、一という文字を書いただけで褒められた。私にとっては、目から鱗が落ちるような嬉しい体験でした。

教頭先生は授業の終わりにこうおっしゃいました。

「文字は全て、この一の組み合わせなんだよ。だから、素晴らしい一を書ける人間に素晴らしい字が書けないわけがない。書けないのは、格好いい字を書こうとか、見本通りに書こうと思うからで、一本一本思いを込め、愛を込めて書くだけで、自分にしか書けない素晴らしい字が出来上がる。このことは、人間の生活するすべてに当てはまることなんだよ」

その教頭先生の言葉が今の私の創作活動、そして人生を支え続けてくれています。

皆さん、どうでしたか？ あの日の花園少年と似たような経験をした人がいました。何よりも教頭先生の最後の言葉がいいですね。確かに全ては一の組み合わせです。1があるから2があり、3があるんですね。

まさしく、基礎基本があって応用があり、そこから豊かな創造が生まれてくるんでしょうね。基礎基本を大切に、原点に戻ること、初心を忘れないことなど、この一の大切さを考えてみると、自分の生活の場面でハッとすることがあるかもしれません。「はい！」と素直な心で返事ができているだろうか。自分から進んで「おはようございます！」と挨拶が出来ているだろうか。自分の思考力や判断力は、正しい基礎基本の結びつきだと思います。新しく始まった1月に、

身の周りの1に気付きながら、大切な1を発見して、自分の基礎基本となる1を意識して、1を1つひとつ積み上げていく穴高生であることを願っています。